

第4回佐伯区まちづくり懇談会 会議要旨

1 開催日時 令和2年(2020年)2月25日 午後3時00分～午後5時15分

2 開催場所 佐伯区役所6階 大会議室

3 出席者

(1) 委員(16人中14人出席)

ア 学識経験者 平田委員

イ 各種団体の関係者 井唯委員 井戸委員 上土井委員 木元委員 國澤委員 久保田委員
清水委員 鉄村委員 古川委員 増田委員 益本委員 光井委員
六拾部委員

(2) 事務局(区)

佐伯区長、副区長兼市民部長、厚生部長、農林建設部長、区政調整課長、地域起こし推進課長、
農林課長、地域起こし推進課職員

4 議題

佐伯区まちづくりアクションプラン(素案)について

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者

(1) 一般傍聴者 5名

(2) 傍聴者(報道関係) 0名

7 会議資料

(1) 議事資料

佐伯区まちづくりアクションプラン(素案)

(2) 参考資料

ア 第3回佐伯区まちづくり懇談会会議要旨

イ 第3回佐伯区まちづくり懇談会における委員意見の反映について

ウ 小さなエリアマネジメントについて

エ 広島市総合計画審議会の審議状況

オ 「広島市基本構想素案」及び「第6次広島市基本計画素案」の概要

カ 広島市基本構想素案

キ 第6次広島市基本計画素案

8 発言の要旨

[開会]

[議事]

平田座長

議事に入る前に、「広島市総合計画審議会の審議状況」について、事務局から報告があるということ
なので、説明をお願いします。

事務局(河部地域起こし推進課長)

(配付資料により説明)

平田座長

事務局から報告があったとおり、本懇談会と並行して広島市総合計画審議会の審議が進んでおり、今年6月には本懇談会でまとめた「区のまちづくりの方向性」を含んだ広島市総合計画が広島市議会の議決を経て策定される予定となっている。

平田座長

本日の議事に入る。

本日の議事は、「佐伯区まちづくりアクションプラン（素案）について」である。

事務局から説明をお願いする。

事務局（河部地域起こし推進課長）

（配付資料により説明）

平田座長

ただいま事務局から説明があったアクションプランの素案に対しての意見やこれからこの計画を実行していくための意気込み、区役所をお願いしておきたいことなどの発言をお願いする。

このことに関しては、委員の皆様お一人ずつ発言をお願いする。今回は、清水委員からお願いする。

清水委員

コイン通りだけではなく、商店街が一段と厳しい状況になっており、2月の始めに五日市中学校の3名の生徒を職業体験で受け入れたが、その時に3名の生徒に商店街で買い物をしたことがあるかと聞くと、3人とも「ありません」という回答だった。コイン通りで行く店は、ゆめタウンで、楽々園は、歩いたことはあるが、どの店も1軒も入ったことがないと言っていた。ただ、救いだったのは、7月に3回あるコイン通りの土曜夜市には、3人のうち2人は3回とも必ず行くということであった。3人のうち1人も1回は必ず行くということであった。あんず祭りには行ったことがあるなど、イベントは楽しみにしていた。

商店街には用事がないということだが、この体験の後、子供たちから手紙が届き、「商店街と地域の結び付きは、すごく大切なことであるということがよく分かり、僕たちも商店街を歩く時は、どんな店があるのかなと興味を持って歩いてみます。」ということだったので、こういった小さな取組も大事であると思った。

また、うれしかったのは、3人のうち1人の女子生徒が、夕方、コイン通りを歩いても全く不安がなく、暗くなっても歩くことができると言っていたことはよかったと思う。やはり、商店街が衰退してしまうと、そういった安心・安全なまちづくりも、厳しくなると思うので、そういったところも責任を感じながら、色々な話を聞いて考えさせられた。

皆さんは、イベントに来てくださるということだが、イベントをやっていくにも商店街は人も不足しているし、お金も足りない。どちらも助けていただきたい部分ではあるが、色々なアイデアを頂戴することや、ボランティアをしてくださる方を紹介していただくといった部分で努力していただければ助かる。

國澤委員

湯来町は、昔は観光地として賑やかだったが、今は火が消えたようになっている。湯来ロッジや湯来交流体験センターの辺りは、露店風呂がオープンし、温泉街に火が付くことになり、今までより安心できる。お客様もそうだろうが、私たち住民もほっとする。やはり明るいまちがいいと思う。山に囲まれてどこも暗いので、防犯灯を設置してくださっているが、もう少し明るいまちにしていきたい。

防災の件だが、高齢化が進み、車の免許を返納される方が増えてきており、避難施設まで行くことができない。今まで、湯来西公民館や湯来ロッジに行っていたが、それがすべて危険地域になり、避難するところがない。大雨の時には、湯来西公民館や湯来ロッジには行けないということ

で、湯来交流体験センターの外の舞台のそでのところの何もないところに入ったが、そこも私たちは1番危ないところではないかと思う。湯来西公民館までは行かずに集会所に地域の人と一緒にいたほうが安心できるということで、集まられた。そういう状態で、これから、いざという時に大変だと思うので、防災の組織をもう少し、見直し、いざという時に皆さんを安全なところに連れて行くという方向性を充実させていただきたい。谷や河川については、行政がてこ入れをしていただき、安全にはなっているが、それでもまだ危ないと思う。

事務局（河部地域起こし推進課長）

今、湯来西公民館に逃げるということがあったが、そこは危険区域ということで、今は湯来交流体験センターに逃げてくださいますということを地域に伝えてある。

免許を返納される方が多いという事情は分かるので、地元の自主防災会、町内会、民生委員・児童委員、社会福祉協議会の方々には、逃げないというのではなく、なるべく早く逃げてくださいますと話をしている。よく地域に行くと、私はここで死んでいいという話を聞くが、実際に死んでもらってはいけないので、逃げることをしていただきたい。区役所も、地域起こし推進課がわがまち防災マップの作成などにより、地域の避難について、地域の方と一緒に考えるようにしているので、ぜひ相談していただき、一緒に考えていきたい。

木元委員

湯来町は、空き家や遊休農地の増加、人口減少の中で、次世代や若い人たちにいかに来てもらえるかを考えたときに、農地や遊休施設などを活用できる受け皿をもう少ししっかり拡充していただきたい。それにはやはり農家、それから個性的な飲食店などの促進制度も必要ではないかなと思った。

また、湯来町も広島市内中心部から1時間で行くことができる。砂谷牧場は、乳牛や芝生が広がる牧場であり、ジェラートなどの食を楽しむことができ、動物とのふれあいやバター作り体験もできるので、休日には親子連れがたくさん来ている。色々な遊具もあり、大変賑わっている。

たくさんの方が砂谷牧場に来られるのに、そのまま帰られるのはもったいないと思い、上水内にも雲出交流広場ができている。ここは、田舎体験もできるハウスが5棟建っていると聞いている。そこは、山の中で、広島のスイスというくらいのすばらしいパークがある。

また、湯の山温泉も昔、浅野公が湯治場として使われたすばらしい温泉であるので、そういったところを連携した地図を作り、観光に来られる方に湯来町を知っていただき、移住を考えていただければと思う。

クアハウス湯の山の薪ボイラーは、4月頃に稼働すると聞いていたが、現在の状況はどうなっているのかを聞きたい。

水内地区の和田で、荒れた農地に13、14棟ハウスが建っている。いよいよ移住して来られるのだと期待しているし、大変うれしいことである。また、水内地区に来年度、もう1名の方が移住されると聞いている。

事務局（大畦農林課長）

薪ボイラーについては、4月の稼働予定で本庁の経済観光局の森づくり担当というところが、準備していたが、建物やボイラーに関する入札が成立しないということがあり、再度入札を行うということで、事務的に若干遅れが生じている。現在、7月の予定ということを知っている。これは、入札金額などのやむを得ない事情であるので、御理解いただきたい。

水内地区の和田のビールハウスについては、静岡県から30歳の方が移住して来られると聞いている。この受け入れについては、水内地区の品川会長が調整されており、空き家も見通しが立っていると聞いている。

國澤委員

空き家対策について、空き家を見に来られた方が、あまりに汚い状態だと、こんなところに住めるのだろうかと思われるので、湯来西公民館がボランティアを募集して空き家を少しずつきれいにしよ

うとしている。3月に何軒かきれいにする予定である。

事務局（大畦農林課長）

地域主体の取組ということですので素晴らしいことだと思う。感謝する。

上土井委員

ふれあい運動会については、来年度も、広島市スポーツ協会に10月25日に開催できるよう、申し込んでいる。認めていただければ、これは障害者と高齢者、障害者も身体障害だけでなく、知的障害、精神障害の方も一緒に参加されるので、ぜひシニアクラブの皆さんも参加していただきたいと思う。

また、アクションプラン素案の12ページに点字ブロックの写真が載っている。黄色の点字ブロックの周辺を黒のレンガで覆ってもらって、視覚障害（特に弱視）の方にはよくなったのではないかなと思う。できれば、他のところもよろしく願いたい。

街の活性化のためのイベントのことが記載してあるが、特にコイン通りという文言があちこちに見受けられる。例えば、コイン通りで集客のイベントなどをするとき、周辺の地域の人たちはいいが、少し遠い地域からの来客を望めば、交通手段が自家用車しかないので、駐車場の問題が出てくる。できれば、公共交通機関を充実させ、例えば、五日市駅南口からコイン通りを通り、免許センターやジアウトレット広島行きのバスがあれば、便利になると思う。ただ、コイン通りの渋滞の問題が発生する。

自分の友人が軽井沢でライブハウスをしているのだが、彼もそろそろ年なので、店をたたんで、田舎に行って農作物を作りながら自給自足の生活をしながら作曲活動などができればいいと話していた。区役所として、そういった人達の受入れに関してどう考えているのか。

事務局（芝農林建設部長）

まず、コイン通りの点字ブロックについては、整備が終わった。佐伯区内で他の場所はどうかと思い、駅前線などを確認したが、点字ブロックが黄色で他のブロックとの色の差がはっきりしているので、整備されている状態だと思っている。一般国道2号歩道改良事業についても、はっきり見えるように、異なる色で整備するようにしているので、そういう形で進めさせていただきたい。

また、バスの関係であるが、アストラムラインを西広島へ延伸するという事業がある。そのとき、石内東に駅をつくる予定になっている。そこへ向けて佐伯区からのバスを検討していると聞いている。コイン通りの渋滞は、十分認識しており、立体交差が1か所しかないので、計画している都市計画道路があるものの、今現在、2路線ほど都市計画道路の整備をしているので、それで精一杯の状況で、次の段階でどこに移っていくかということを今後検討していきたい。

事務局（建部佐伯区長）

移住のことについて、行政の制度としては、農業や林業を軸にした呼び込みということで、一生懸命地域の皆さんにがんばっていただいております、感謝する。移住するに当たっては、そこに仕事があり、住居があり、それを地域の皆さんが気持ちよく受け入れてくれるコミュニティがあるということが条件だと思う。コミュニティのところは湯来の皆さんが、気持ちよく受け入れるという気持ちで、受け入れていただければと思うし、住まいも空き家はそれなりにある、仕事のほうは手に職を持っておられる方は、そこで色々なことが展開できるという下地があれば、十分可能であると思う。

区役所もどこにどういう場所があるという情報を提供するというお手伝いはできると思う。空き家住宅については、ひろしま活力農業経営者育成事業で来られる方については、空き家を改修する経費について補助できる制度がある。それを農業だけでなく、色々な方に対応できるような制度に変えてほしいということは、市の中で働きかけていきたいと思っている。もうしばらく時間かかるかもしれないが、そういった努力はしていきたいと思っている。

井戸委員

佐伯区女性会連合会といっても、五日市の中央部の女性会は入っておられない。水内、河内、石内、藤木の4団体の連合会であるが、五日市の中央部や湯来の方面では、色々なすばらしいイベント等されているようであるが、そこに出向いて行くことが、困難な状況にある。

団地に関しては、高齢化が進んでおり、公共のバスに乗ることが難しくなる、頼りにしていた主人も免許を返納して運転ができなくなっている。若い人に頼もうとしても、仕事で忙しく、頼りにならないということで、団地から出ること自体、だんだん難しくなって、すばらしいイベントがあっても参加することが困難な状況にある。公共交通機関もあるが、できれば、乗り合いバスや乗り合いタクシーといったものがあるといいと思っている。色々なところへ出向くということが、とてもいいことであるが、なかなか出向くことが難しい。

地域の中でも、出向いて行き、色々な方と顔見知りになり、馴染みになるということは、防災や防犯、子育てにしても、とても重要なことだと思う。仕事をリタイアされた方に地域で一緒に活動しましょうと声をかけるのだが、なかなかいい返事が返ってこない。ただ、そんな方々が地域に出てこないかという、そうではなく、カラオケやグランドゴルフやテニスには、嬉々としてお出かけになっており、今でじっとしておられない。そういう方をひっぱり出すにはどうしたらいいのだろうかと思いつつ日々みんなと考えているが、なかなか、思うように前に進まない。

高齢者いきいきポイント事業があるが、これは、人を動かすことにとても効果があったと思う。それを思うと、若い世代も含めた地域活動ポイント事業があるといいと思った。

事務局（建部佐伯区長）

乗り合いタクシーの件について、井戸委員の発言は広域的なことだとは思いますが、アクションプラン素案の12ページに乗り合いタクシーの導入を記載している。これは、例えば、美鈴が丘団地において、公共バスもあるが、坂も多く、高齢者が増え免許も返納されている中で、買い物すらできないという方が多いということで、りんりんタクシーを走らせておられるというものである。1回当たり2000円というルールを決めておられる。そういう意味では地域の中で、りんりんタクシーのようなものをとすることであれば、その運営や他地域への導入支援ということで、ノウハウを紹介することができる。そこを仲介することが、区役所の役目だと思うので、もし地域の中でそういうことをお考えだということであれば、一度地域の中で話をさせていただき、ぜひということであれば、必要な支援をさせていただければと思う。

事務局（河部地域起こし推進課長）

湯来地区においても、デマンドタクシーや乗り合いタクシーはどうかということで、既存のバス会社との共存共栄も考え、区役所も一緒に勉強して取り組もうとしている。区長が発言したように、ぜひ一緒にいい方法を考えていきたい。

事務局（竹内厚生部長）

高齢者いきいきポイント事業の年齢の拡大についてだが、この事業は、地域活動の担い手となるきっかけづくりとしても効果を奏しているということで、市のほうでこれまで70歳以上だったものを65歳以上に拡大しようとしている。今開かれている市議会で審議してもらっており、承認されれば、今年9月1日から70歳を65歳に拡大し、上限1万円ということでやらせていただこうと考えている。

井唯委員

今回の懇談会を通じて、行政と委員の方々の意見の整合性が取れ、大変立派なアクションプランを本日披露いただき、大変よかったと思っている。個々の細かい項目がたくさんあるが、非常に立派な計画をスローガンだけで終わらせないよう確実に実行に移すことが、我々の仕事であると感じている。

まず、まちづくりに対して、区民の皆さんのご賛同をいただくということが1番だと感じている。そのためには、広報活動という周知になるわけだが、この、周知の方法については、区民の方々が、関心と夢を持っていただけるような発表をしなければ、うまくいかないと思うので、発表方法及び広

報の方法をよく考えて立派なスタートが切れるよう願っている。また、各学区においては、連合町内会がやはり中心になると思うが、ここを中心に各地区の地域団体の方の説明会が地域では必要である。周知徹底の会が必要だと思うので、その会には、行政からも出席していただき、できれば、時期を集約して、短期間のうちに全域に行き渡るといような方策を考えていただきたい。

5か年の計画は非常に長いので、推進の取り組みと、中間報告について検討項目に入れていただきたいと感じている。

アクションプラン素案で修正をお願いしたいところが1点ある。13ページの(3)の防災防犯活動の主な取組の「わがまちを守る防犯・防災シニア隊(仮称)の設立」というところで、この説明が「シニアクラブと町内会等が連携し、高齢者に特化した新組織の立ち上げ」となっているが、この文面から感じるのは、連合町内会の古川会長とシニアクラブ連合会の私の二人が、先導してやるというように感じる。これは、高齢者の地域貢献という点ですばらしい計画だと感じているが、この二人だけでという形ではなく、この計画の中の組織を、各地域の町内会を中心とする連合町内会とシニアクラブで立ち上げるというのは、非常に高いハードルであり、内容が防犯防災ということなので、この組織については、自主防災会と防犯連合会を主導する団体という位置付けで、トップに持ってくるという記載をしてはどうか。そこへ町内会が加わり、高齢者を活かすという意味から、当然シニアクラブも協力体制に入るといような形が理解しやすいのではないか。この文面については、説明文の「シニアクラブ」のところを「自主防災会及び防犯連合」に置き換えていただきたい。あと、町内会のうしろに、シニアクラブ等が連携するとい記載にしていただければ、実体にあう表現にできるのではないかと思う。

事務局(河部地域起こし推進課長)

アクションプラン素案の中身であるが、今から委員お一人ずつ発言していただく中で、町内会連合会の古川会長、防犯連合会の鉄村会長、自主防災会連合会の増田会長がいらっしゃるので、御意見をいただき、修正できれば修正したい。本日、結論が出なければ、座長、事務局一任ということとさせていただきますと思う。

先ほど、夢をもてるような発表をし、よいスタートを切るためには、連合町内会などにこのアクションプランを説明し、佐伯区の皆さんに御理解いただき、趣旨を十分理解し賛同いただくことが必要であるという趣旨の発言があった。区役所としても、せっかくこういったアクションプランが出来れば、佐伯区だよりや市ホームページ、あるいは地域に出向いて趣旨の説明をするなど、あらゆる機会を使ってやっていきたい。

ただし、このアクションプランについては、行政だけがやるのではないので、行政がやるもの、地域でやっていただくもの、地域と行政が一緒になってやっていくものということであり、皆様もあらゆる機会に広めていただければと思っている。計画の推進と中間報告については、行政だけでやることは、進行管理ができるが、地域の皆さんがやっていただくことや地域と行政が一緒にやることについては、なかなか難しいが、情報収集したうえで、最低でも年1回は、どうゆう形でやっているということを報告できる形を検討している。

鉄村委員

この資料は、非常によくできており、委員の皆さんの意向がほとんど入っていると思う。これから、地域の住民の方が、納得してやるということである。また、行政がやるべき仕事、あるいは我々地域住民がやる仕事というように分けるのではなく、大きな一つの固まりでやっていくものである。よく三位一体ということ言うのだが、例えば、防犯であれば、地域の防犯団体と警察と行政である。防災であれば、地域の自主防災会と消防署と行政である。

公衆衛生協議会の立場からすると、全ての情報について網羅されており、非常にありがたいと思う。八幡川リバーマラソンとそれに先立って、河川クリーンキャンペーンをやっており、岡の下川のジミ再生事業、また、植物公園を利用させていただき、区民ウォーキング大会ということで、行政の後押しをいただき、各種団体はこういう形で頑張っている。

各学区、地区の公衆衛生協議会の健康教室、あるいは健康講座、門前清掃といった地域でやるべき

ものは地域でやらなければならないと思う。月2回の一斉清掃は、環境局と一緒にやっているが、毎日の門前清掃は各地域の人々がやっている。このアクションプランにおいて、地域がやるものについては、地域の各種団体の長が頭になって、地域の人を引っ張っていかなければいけないと思っている。特に公衆衛生協議会は、地域起こし推進課、生活課、健康長寿課に分かれてお世話になることがあるが、地域共生社会の実現に向けてということで、地域支え合い課が新しくできて、やりやすくなると東区からは聞いている。今まで通り、進めていきたい。これという目新しいものはないが、過去のものを継続していくということが大事だと思っている。

古川委員

このアクションプランについては、私もすばらしいと評価をしている。非常に内容がわかりやすくまとめられ、カラーで表現され、感激している。これから、町内会活動の一つのガイドラインとし、これを見ながら誠実に進めていきたいと思う。

キャッチフレーズについて、現行の「コラボシティ・佐伯区」というのは、全くわからなかった。今回は、非常にわかりやすく、しかも、幼稚園の子でも児童でも素直に理解できるというキャッチフレーズだと思う。「さいき」と言う人が多いし、大きなイベントの開会宣言でも「さいきく」と言う人がいるので、このキャッチフレーズに「さ・え・き」とはっきり表記することによって、徹底するだろうと思う。

各区のまちづくりの方向性を見せてもらったが、佐伯区は他区に比べると要点をついており、わかりやすく、きれいにまとめており、非常にすばらしい。たくさん項目を挙げればいいのかというのではないので、これくらいがいいと思う。また、大きな災害があったということで、安心・安全で災害に強いまちづくりということが、すべての区で取り上げられているのが、特徴である。スポーツに関する記載があるのは、南区だけとなっている。南区は、10月にあるスポーツレクリエーションフェスティバルで、何十回も優勝していることが関係しているのではないかなと思う。各区とも非常によく考えられている。

山陽道、西広島バイパス、国道2号、廿日市草津線、この大きな四つの道路は、すべて東西を走っている。南北は、コイン通りしかない。コイン通りの道路ができたのが昭和30年頃だと思うが、当時は、周りが田だったこともあり、とても広い道路だと感じた。しかし、当時、倍の広さの道路を作っておけば、佐伯区の発展は、現在どころではなかったと思う。佐伯区を中心となる道路となっているが、今では狭くなっている。廿日市市は、スポーツ施設から一気に南道路まで行く道路ができた。これは、さすがだと思う。JRと広島電鉄が並行して走っているのに、高架にはならないと思うが、府中から海田、船越にかけて、高架になるので、もし、将来的には、高架になれば、ますます住みやすい佐伯区になると思う。環境的には、8区の中で佐伯区ほど住みやすい区はない。非常に喜んでいますが、ただただコイン通りが狭い。

結論としては、とてもすばらしいまちづくりアクションプランができた。この策定に参画させていただき、うれしく思う。今後とも、これを町内会活動にしっかり反映させて進めていきたいと思う。

事務局（芝農林建設部長）

道路の件であるが、JRの山陽本線及び広島電鉄の宮島線を横断する計画が2カ所ある。海老山の西側の道路から山陽本線及び宮島線をわたって北へ抜ける計画と五日市駅の東側の踏切を立体交差にするという計画がある。現在、他の2カ所の都市計画道路の整備を行っているの、そこが終わった時に検討していく。

増田委員

自主防災の立場から意見を述べたい。提案されたアクションプラン素案については、これでいいと思う。八幡川の土砂の関係については、広島県の河川管理のほうに要望されているということで感謝する。八幡神社のところに何個かの木の根と一緒に大きな樹木が流れている。これは八幡川リバーマラソンの後に流れたものだと思うが、こういったものについては、環境面を含め、早急に撤去してほしい。

佐伯区の中では、湯来、五日市観音西、河内といったところが、土砂災害あるいは、河川の氾濫の被害が大きいところではないかと思っている。ただ、全体的に見ると、危機感は薄いのが実情である。災害が起きた場合には、やはり人の命を助けるというのが1番であるため、そのためには、早く逃げるということしか今のこの気象状況の中ではないのではないかと思っている。

しかし、なかなか逃げないというのが現実の課題になっている。なぜ逃げないのかというと、自分ところは安全であると思っているということもあるし、誰かが逃げて一緒に逃げようということにならないと逃げないのではないかと思う。今後、自主防災会の中では、早めに逃げようという声かけが必要であると思っている。また、一般の方も、大きなサイレンを聞けば、危ないのかなということで避難が早まると考えるが、このプランの中での取組と実際に逃げるかどうかという人の命を守ることが非常に難しい面があると思っている。

昨年来の、災害時の避難行動要支援者の取組については、民生委員・児童委員、自主防災会、町内会、社会福祉協議会がこういう取組で、みんなで助け合おうと確認はしており、地域の自主防災会にもお願いはしているが、避難情報が出ても逃げていないというのが現状ではないかと思っている。

わがまちを守る防犯・防災シニア隊の問題であるが、地域の特性というのもあり、今も自主防災会はそれぞれ町内会、学区単位となっており、地域により取組の濃淡があるので、これを一括でどのように組織を立ち上げるのかわからないが、現状でも、町内会と自主防災会は連携を取りながら取り組んでおり、実際、今の町内会の組織の現状からいえば、シニアクラブがいなくなれば、町内会の運営もできない状況なので、その辺りの絡みをもう少し練らないといけない。

事務局（河部地域起こし推進課長）

八幡川の中の大きな樹木については、確認して対応する。避難行動要支援者の避難支援に関しては、平成30年度に自主防災会、連合町内会、民生委員・児童委員協議会、社会福祉協議会のそれぞれの団体の長にお集まりいただき、区政車座談義の中でご議論いただき、佐伯区のモデルを作ろうということで、4団体の役割を決めた。それを各学区に持ち帰り、自主防災会が声掛けを行おうということで、現在取り組んでいただいている。増田委員から、わがまちを守る防犯・防災シニア隊については、もう少し掘り下げて議論したほうがいいのではないかという意見があったので、そういう形でやっていきたいと思う。

井唯委員

増田委員がおっしゃるように各学区の組織は、町内会と自主防災会が連携を取ってやっていると思う。わがまちを守る防犯・防災シニア隊の設立があがった経緯は、最近が高齢者の皆さんの元気ですごいので、シニアクラブのパワーを是非活用しようという発想から、防犯と防災という分野で久保田副座長からの発案であがったわけだが、これは、安易にすぐに取り組めるような形にはならないと思う。シニアクラブのメンバーは、日頃から小学校の登下校時の見守り、高齢者の見守りなど、ボランティア精神でやっている。それをますます拡大することはいいが、いざ防災となると、人の命がかかってくるので、それにどう関わっていくかとなると、組織としてきちとしたものでスタートさせなければいけないと思う。特に防災については、手が空けば手伝おうかというものではないと思う。その辺りを詰めていただきたい。災害の被害が大きくなっており、やはり気になるので、考えないといけないと思う。また、高齢者の活用については、地域の見守りや公園の清掃、都市の美化など幅広く社会貢献ということで取り組んでいるので、それを、今後さらに拡大強化していく方向で、シニアクラブが伸びていけば、地域の役に立つことになると思っている。

事務局（建部佐伯区長）

わがまちを守る防犯・防災シニア隊のところの記載については、もう少し練り直させてほしい。ただ、趣旨としては、元気なシニアクラブの皆さんが各地域におられるので、ぜひ、町内会活動だけではなく、防犯・防災活動にも積極的に参加していただきたいということである。そういう皆さんを取り込んで一緒にやっていきたいというのが、ここに書いてある趣旨だと理解している。そういう意味で、先ほどのご発言を踏まえて内容は考えたい。これは、6月にこのアクションプランができれば、

すぐに組織を立ち上げて何か具体的にやっていきたいと思いますということではなく、5年間の計画なので、5年間の中で何ができるかを一緒にしっかり考え、皆さんが納得した形で策定したいと思う。例えば、昨年度、避難行動要支援者の支援の関係で皆さんに集まっていたように、最初から学区や町内会レベルで議論すると小さくなり、煩雑になるので、まずは、佐伯区レベルでの大きな組織の代表の方に集まってお話し、まずどんなことができるか、あるいはできないのかということも含め、皆さんでもう一度議論するような場を定期的に設け、皆さんで検討していくような場をつくっていききたいと思うが、いかがか。まずは、組織のところからしっかり考えていくということで進めていければと思う。

鉄村委員

現実にはシニア隊がなくても、防犯・防災の役員は高齢者がやっているの、シニア隊ということではなく、一緒にやっていく形にすればいいのではないかと。新しい組織を立ち上げるとなると、5年間の中で立ち上げればいいとはいえ、絵に書いた餅になると思う。現実にはやるのであれば、ここの文面と一緒にやるのだという内容に変えればいいのではないかと。

益本委員

子ども会のほうは、とにかく子どもに何をしてあげたらいいかということで、随分前に、久保田副座長に聞いたところ、子ども会は、行事や事業をするところであるとのことであった。とにかく事業をなささいということで、今年度は、マツダスタジアムに行き、見学をさせてやった。2月9日にも、雪遊びということで、廿日市市に連れて行った。子どもたちも喜んで、雪で遊んでいた。毎年毎年同じような事業ではあるが、子どもにとっては、すべて新しいことであるので、とにかく身をもって体験させてあげたいと思っている。広島が、元気がなくなっていると感じている。アルパークの天満屋も閉店してしまった。子ども会のほうは、子どもを元気に遊ばせるので、これからも応援をよろしくお願いいたします。

光井委員

アクションプランについては、色々な意見を取り入れてもらい、非常にわかりやすく、しっかりしたものができたのではないかと。これを実現させるためには、区役所だけでは、無理なので、やはり地域の方がどれだけ本気になってやっていくかということが、重要になってくると思う。

区長から空き家の件に関して話が合ったが、現在、新規就農者や半林半X移住者にしても空き家を貸してもらえないところがない。広島市自体が、他の市町村と比べ、空き家に対する取組がかなり遅れている。先日も小さい子ども連れの家族が湯来で空き家を探していたが、空き家がないということで、北広島町の大朝に住むことになった。現在も子ども連れの二家族が空き家を探しているが、なかなか見つかりそうにないという現実があるので、この施策を早急に進めてもらいたいと思う。

湯来町全体もそうだが、水内地区、上水内地区の湯来東小学校、湯来西小学校、湯来中学校の子ども数が、10年前と比べ3分の1になっている。湯来町にとっても、これまでにない少子化、過疎化が進んでいる。これ以上過疎化が進めば、湯来町はコミュニティも取れなくなり、町自体が廃集落のようになるのではないかと。地域においても若い人は少ないが、若い人に働きかけて頑張っていきたいと思うので、行政からの協力もよろしくお願いいたします。

事務局（河部地域起こし推進課長）

空き家対策ということで、今までのひろしま活力農業経営者育成事業や半林半X移住者支援事業を一般の方に広げていくということで、安佐北区では、広島県の空き家バンクに連合町内会が窓口になり、空き家を探し、宅地建物取引業の免許がある方が空き家バンクに載せるということをやっている。区役所も、本庁の地域活性推進課という部署と一緒に、地域の声をどんどん伝えながらやっていきたい。ただし、湯来町は、コミュニティが濃厚なので、誰でもいいということではないと思う。その兼ね合いを見ながらやっていきたい。また、小・中学校については、先日も新聞に出ていたように、実際どうなるのだろうかということで、市においても、地域や区役所を含めた形で検討していくので、

一緒に考えていきたい。

六拾部委員

アクションプランについては、皆さんと同様の意見である。あとは、どうやって実現していくかということである。こういう計画は、絵に書いた餅になることが多く、いかに実現をしていくかが大きな課題だと思う。9番の計画の推進に当たってのところが注目していたが、わずか三行半しか記載がなく、心細い感じがした。10年前と同じような感じするが、唯一エリアマネジメントの部分が入ってきたぐらいだと思う。もう少し具体的な手法なり、意気込みを感じられる内容が欲しかったように感じた。特に実際これからどんどん財政難が深刻化していく中で、公助の限界ということになり、協力して働く協働ということで、地域がどれだけやる気になって取り組むかという部分に尽きるのではないと思う。前回、ファシリテーターの派遣を提案したが、やはり、地域の人材をどうやって把握するか、それを育てていくかということが1番大きな課題になってくるのではないと思う。そういう意味では、佐伯区まちづくり百人委員会は、実動部隊だと思っている。最近、ローカルガバナンスという言葉を知ったが、まさにそういうことだと思う。佐伯区まちづくり百人委員会は、発足したときよりも人数も減っており、厳しい状況ではあるが、私どもも努力するが、行政も協力していただき、これが佐伯区だけでなく、もう少し小さな地域でも似たような形で協働の地域づくりができるような形が生まれれば一番いいと思う。特に望みたいのは、ファシリテーター的な部分で言うと行政職員の方が、そういう資格を取られるなり、意欲を持って取り組んでほしい。実際には、資格がなくてもそういう役割を果たしておられる地域起こし推進課の職員は多いが、これからは、やはり人・モノ・カネで言うとカネの部分に限界に達するので、工夫をして、実を上げていくしかないと思う。そういうことを要望したいと思う。

事務局（建部佐伯区長）

9番の計画の推進に当たってのところは、例えば、PDCAサイクルでしっかりとチェックしながら進めていくということを記載するのが普通であると思っていた。区役所だけが主体的やっていく事業であれば、そういう仕掛けが必要であるが、区民の皆さんが主体となって取り組む事業がたくさんある中で、それをすると難しいところが出てくることからアクションプラン素案には記載していない。ただし、皆さんの進捗状況を色々なところで情報収集し、皆さんの意見をいただきながら、PDCAに近い形でチェックをしていただき、見直しをしながら進めていきたい。ここの記載が物足りないという意見は、そのとおりだと思うが、御理解をいただければと思う。

空き家に関しては、空き家情報をネットワークで結んでデータベースにし、どこにどういった空き家があるかを管理しながら、空き家を探す人たちに対応できないかと思ったが、不動産を扱うには、ノウハウがない、資格がないといった色々な壁があり、なかなか進んでいない。そういう状況の中でどうすれば空き家情報を集約し、提供できるかを考えたい。ただ、そういった情報を提供する以上は、区役所にも責任が伴うので、単に紹介するだけというわけにいかない。まだ答えは出ていないが、何かできないかという話をしているということで、御理解いただきたい。

久保田副座長

全体の表現の中で、やはり26ページ以降の資料編のところが、住民にとって何の事業をしているのかわかるので、わかりやすい資料だと思う。説明する時にも使える。

主な取組の一つ前の項目をもう少し丁寧に、なぜこの事業をするかということ踏まえた説明を入れたら住民に理解してもらえらると思う。例えば、湯来地区において、農林業就労者の増加に向けた取組や、農林業・農村の振興に取り組むとあるが、敢えて、湯来地区と書かなくても農林業就労者等と書いたほうがいいのではないかな。湯来地区以外の河内地区の住民が読まれたら、自分のところは関係ないのかと思われるので、包括的な表現にしたらいいいのではないかなと思う。事業の前の方針、考え方、精神がここにくると思うので、ここを読めば、すぐに事業が理解できるようにすればいいと思う。例えば、公民館まつりがあるが、これは、まつりをするのが目的ではなく、住民の学習意欲を高めて、生涯学習を推進することが目的で事業をするので、学習意欲という言葉と生涯学習のところから公民

館まつりにつながるということで、少し丁寧に整理したほうがいいと思う。なるべく資料に余白を出さないように十分説明した方がいいと思う。地区名を敢えて入れる必要はないということ、包括的な表現にして、たまたま湯来、たまたま河内という言い方にした方がいいと思う。各地域で説明するときには、説明文のところで地区を絞らない方がいいと思う。美鈴が丘のタクシーのことも、他の地区でもされるのであれば、うちも考えるべきではないかと思わせるような、夢が抱けるような表現にしてもらったらいと思う。

事務局（河部地域起こし推進課長）

余白についてはご発言があったが、実際は、本文の四角の中に主な取組項目を記載しており、具体的な取組としてその概要を説明するという構成にしており、本文をそのまま分かりやすい表にしたのが、資料編の表であるので、本文を見ていただければ、余白はないということである。やはり、一覧表の形にすると、構造上余白が出てくる場合がある。久保田副座長が言われたように、もう少し丁寧にということについては、考えていく。本日欠席の方にも伝えているが、2月末までに御意見を伺うことにしている。

平田座長

本日、委員の皆様からいただいた意見については、事務局において素案に反映させ、アクションプランを完成させることになるが、本懇談会は本日で最終回となるので、意見の反映状況や最終的なアクションプランの確認については、座長に一任していただくということでよいか。

（全員了承）

事務局（河部地域起こし推進課長）

この場で言いにくいことや言い忘れたということがあれば、2月末までに文書でも電話でも結構なので、地域起こし推進課まで連絡いただければ、追加の意見についても座長と相談させていただく。

[区長あいさつ]

建部佐伯区長

佐伯区まちづくり懇談会の終了に当たり、一言お礼を申し上げます。

皆様におかれましては、大変お忙しい中、1年間の長期に渡り、佐伯区のまちづくりの方向性などについて、積極的な意見交換をしていただきまして、誠にありがとうございました。

本日、委員の皆様からいただいた御意見につきましては、平田座長と協議のうえ、アクションプランの素案に反映させ、本年6月に予定されております広島市総合計画の策定期間にあわせて、最終的なアクションプランとして完成させる予定にしております。

これまで4回の懇談会の中で、委員の皆様からいただいた貴重な御意見については、アクションプランに反映させる、あるいは関係機関へ情報提供することにより、今後の区政の推進に生かしていきたいと考えております。

最後に、佐伯区まちづくり懇談会は本日で終了しますが、皆様におかれましては、引き続き、佐伯区の区政の推進に御支援、御協力を賜りますよう、お願い申し上げまして、私からのお礼の言葉とさせていただきます。

本当に、ありがとうございました。

平田座長

以上で本日の議事は終了とさせていただきます。

[閉会]